

## 研究活動報告

### タイ「高齢者のための地域包括ケアサービス開発プロジェクト (S-TOP)」 セミナー

2022年7月20日(水)～21日(木)、タイ保健省およびJICA(国際協力機構)が主催した「高齢者のための地域包括ケアサービス開発プロジェクト(S-TOP)ナショナルセミナー」に招聘され、「日中韓の経験からみた東南アジアの高齢化施策への展望」と題する講演を行った。会議はタイ・バンコクで開催され、新型コロナウイルス流行後初めての海外における対面会議参加であった。JICAは世界で広がる高齢化に対応するプロジェクトを、アジア・ラテンアメリカで展開しているが、タイのこのプロジェクトは、2007年に始まったコミュニティ支援に関するC-TOP、在宅ケアを推進するL-TOPに続くもので、大病院に集中する高齢患者をコミュニティ病院に誘導し、リソースの効率的な活用を図ることなどを目的としている。タイは30パーツ医療制度で皆保険を達成した、というのは有名な話であるが、すでに30パーツの自己負担はなくなり、英国型の税金による医療制度を構築している。今後急速に高齢化が進み、高齢者の医療・介護ニーズが高まる中で、どのようにケアを提供していくのか、日中韓等の東アジアとは異なる展開も考えられ、興味深い。(林 玲子 記)

### 人口地理学国際会議(ICPG2022)

人口地理学国際会議(The International Conference on Population Geographies)は人口地理学や空間人口学の研究者が集う国際会議であり、隔年で開催されている。前回大会は2019年に英国ラフバラで開催され、2021年の大会については東京で開催を予定していたが、世界的な新型コロナウイルスの蔓延状況に伴い、1年後の2022年にオンラインで開催となった。具体的には、8月25日～27日の日程で開催され、報告総数は68、参加者総数は121人であった。

当研究所からは林玲子(副所長)、小池司朗(人口構造研究部長)、菅桂太(人口構造研究部第1室長)、鎌田健司(人口構造研究部第2室長)、中川雅貴(国際関係部第3室長)、筆者の6名が参加し、以下の研究発表を行った。

- Reiko Hayashi "Regional difference of COVID-19 mortality - Excess and deficit"
- Shiro Koike, Keita Suga, and Kenji Kamata "Long-term changes of subnational population in Japan and their factors"
- Masataka Nakagawa "Local care facilities, family-based care resources and intentions for residential relocations of older adults in Japan: A multilevel analysis"
- Nozomu Inoue and Takashi Inoue "The patterns of population change by station area along private railway lines in the western suburbs of Tokyo: The period of 2015-2065"

次回大会は北アイルランドのクィーンズ大学ベルファスト(The Queen's University Belfast)で開催予定である。

(井上 希 記)